

総合型地域スポーツクラブ育成推進フォーラム開催報告

- 親子スポーツフェスティバル IN つわの -

平成 19 年 8 月 26 日 (日) 9 : 00 ~ 12 : 00

津和野町民センター内 津和野体育館

去る、平成 19 年 8 月 26 日 (日) 津和野町民センターにおいて、総合型地域スポーツクラブ育成・啓発事業の一環として、「親子スポーツフェスティバル in つわの」を開催したところ県外・町内・近隣市町村から 52 名の参加があった。

このフォーラムは、総合型地域スポーツクラブの設立に向け気運を高めてくれるであろう親子・指導者・スポーツに関心のある方を対象に、実技と講演の二部構成で実施した。

第一部は、運動することの面白さを体でもらうためのプログラムとして、「動きづくりクリニック～コーディネーショントレーニング～」と題して元オリンピック日本代表選手青戸慎司氏の指導を受けた。



実技の内容としては、走りを中心とした親子のコーディネーショントレーニングで参加者及び関係者共々いい汗を流した。

特に、青戸氏から「速く走れるようになりた

い人？」という問いかけに、子どもたちは一斉に「はぁ～い」と元気よく手を挙げ、「それ



には、まず、腕の振りが大切。手は生卵を割らないように持つイメージで軽く握り、肘は 90 度で...等々」の青戸氏の丁寧な指導に、子どもたちは真剣に取り組み、時には「あぁ～生卵が割れちゃったぁ！」など元気な声が体育館に響き渡った。最後には、子どもたちから「楽しかったぁ！速く走れるようになった気がする！」と、汗を拭きながらキラキラした瞳で口々に話してくれたのが印象的であった。

第二部は、総合型地域スポーツクラブはなぜ必要かについて考えてもらうため「大丈夫？子どもたちの体力～学校・家庭・地域で取り組むこと～」と題して日本体育協会総合型地域スポーツクラブ育成委員会中央企画班員の松田雅彦氏に講演をしていただいた。

講演では、子どもの体力低下を入り口として総合型クラブの意義を話していただいた。現代の子どもの体力を20年前の子どものと比較をすると今の子どもの方が体格は良くなっているにもかかわらず運動能力は劣っていることが報告された。さらに小児メタボリック症候群について説明され、運動習慣のない子どもが多くなったことに起因する諸問題が指摘された。



このことを解消するためには、無理矢理運動をさせるのではなく、子どもたちが自ら進んで運動を行える環境をつくる必要があるとあり、その母体として総合型地域スポーツクラブがもつ可能性を力説された。また、「プレイヤーズ・ファースト」の理念が、総合型地域スポーツクラブづくりのキーワードであり、スポーツをする主体（地域住民）が自分たちの「やってみたい！」を自分たちの手で具体化させる営みが今までとの違いであると説明された。さらに講演のなかでは、「チームとクラブの違い」などを手がかりにして総合型地域スポーツクラブのイメージを伝えていただいた。「スポーツ種目からスポーツ文化へ」「チームが単一で動くのではなくチームからクラブへの質的転換」がポイントであると述べられた。

県外（山口県）を含め本フォーラムに参加いただいた52名の方には、講演の内容がかなり具体的に伝わったと思われる。

また、協力をいただいた津和野町教育委員会の方も、このイベントを通して総合型地域スポーツクラブに興味・関心を持っていただけたように思われる。

本県においては、現在20クラブ中15クラブが設立され、5クラブが日体協の委託事業を受けて育成中である。未育成市町村が21市町村中、14市町村あるが、今後、このような親子を対象にした運動やスポーツイベントと講演をセットにして参加者を募り、総合型地域スポーツクラブの必要性を啓発していきたい。

（報告：中国ブロック地方企画班員 田辺 順）